



だいや川通信

今市の水を守る市民の会

第 33 号

2012年7月25日(水)



シモツケコウホネが 教えてくれていること

今年も小代の水路にシモツケコウホの花が咲く季節が巡ってきた。しかし昨年の31号(2011年7月)にも書いたように、ここ二・三年、さまざまな異変が現れている。

昨年辺りから、葉の一部に緑色の葉が出てそれが浮葉状のものに変わるようになってしまった。沈水葉のみのコウホネが浮葉を作り始めたというのだから、よくよくのことだ。シモツケコウホネの命名者である志賀隆氏は、浮葉の出現は、水温が摂氏25度以上になる日が増加していることと関係しているのではな

いかとされている。圃情整備以前の2009年には最高水温が25度以上の日は年間を通してたった1日しかなかったのに、2010年は、41日、11年は8月末時点で27日だった。一般的に水温が上がるにつれて水中に溶けている二酸化炭素の量が減少するのだそうで、このため、沈水葉のみをつけるシモツケコウホネにとって、高温の水環境は大きなストレスになっているようだ。(コウホネ通信 07号参照)

さて今年7月の定例の作業日にこれまでに見たことがなかった緑灰色の葉が3~40枚出ているのが見つけられた。これは明らかに枯葉に近いもので3・4日でとろけて葉脈だけが残り、消えてしまった。志賀さんとの電話のやり取りの中でこうした葉は、研究室などで培養している過程でPHのアルカリ濃度が高まってくるとよく見られるとの情報を得て、現在、改めて水路のPHを正確に測定するべく努力している。コウホネがアルカリには極めて弱いと言う大原則をいまさらながら実感している次第である。

さらにカワヒナが大発生してしまって、ただでさえ元気のない葉を食べているということも大きな問題である。弱り目に祟り目と言うのか、原因は複合的で特定する決め手に欠ける気もするが、一つだけはっきりしていることがある。それは圃情整備前にはこの水路に大量の湧水が入っていたと言うことである。もし、この水路に湧水を一定量入れることができれば少なくともPHの問題(湧水ではPHは6~6.5)と水温の問題はかなりクリアできるのではないかと思われる。それを如実に示しているのがコウホネ自生地直下の柴田新一氏が管理されている土水路である。ここにはコウホネ自生地からの水と湧水が入っており、移植されたコウホネが対照的なほど元気な姿を見せている。ここではナガエミクリもしっかりと花をつけ、以前の自生地水路に近い状態になっている。こうしたことからコウホネやナガエミクリにとって湧水がいかに重要なものかは明らかである。圃情整備の中心的な目的は、当然のことながら大型の近代的な田んぼの形成である。けれども今まで曲がりなりにも共生してきたこれらの生物を消し去らぬためには、工事にあたって湧水を十分に生かした工法を取ることが大切だと思う。(森)

目次:

シモツケコウホネが 教えてくれていること	1
川むしたんけん隊	2
森のコンサートのころ	3
ゆったりウォーク 薄井沢	4

お知らせ

次回の定例会
2012年8月29日(水)
日光市民活動支援センター
午後1時~2時

今市の水を守る市民の会会計報告
2010年4月1日~2011年3月31日

収入	
会費 個人会員	30,000
会費 団体会員	
ゆったりウォーク参加費	1,100
合計	31,100

支出	
支援センターロッカー使用料	1,200
通信印刷・コピー料	2,700
通信送料	13,280
ネット使用料	19,950
保険料	1,105
雑費(お礼・お祝い)	12,100
合計	50,335

2009年繰越金	223,960
2010年収入	31,100
	255,060

2010年残高	204,725
---------	---------

今市の水を守る市民の会会計報告
2011年4月1日~2012年3月31日

収入	
会費 個人会員	7,000
会費 団体会員	
ゆったりウォーク参加費	
寄付金	5,000
合計	12,000

支出	
支援センターロッカー使用料	1,200
通信印刷・コピー料	540
通信送料	8,800
ネット使用料	21,000
紙・封筒	946
水槽・ブク・放射線測定器	9,738
雑費(お礼・お祝い)	
合計	42,224

2010年繰越金	204,725
2011年収入	12,000
	216,725

2011年残高	174,501
---------	---------

今年も見つけました 行川の生き物たち

川むしたんけん隊



NPO「なんとなくのにわ」の行事に当会が協力するようになって5年になります。今年も雨の多い春でしたが、毎年のおなじみの場所一行川中井橋上流一で5月26日（土）で行いました。この日はうす曇りで水温14度（気温23度）、水量はやや多めでしたが絶好の「たんけん」日和。他の行事が重なったため参加者の少なかったことがちょっと残念でした。去年は6月4日でしたので、比較してみましょう。●は数の多かったものです。

水質階級

I（きれいな水）

今年

●カワゲラ ●ヘビトンボ
プラナリア ヒラタカゲロウ
サワガニ

去年

●カワゲラ ●ヘビトンボ
ヒラタカゲロウ サワガニ

II（少しきたない）

カワニナ コオニヤンマ

●コオニヤンマ ●カワニナ
ヒラタドロムシ

III（きたない）

ヒル

ヒル

IV（大変きたない）

なし

なし

その他の生き物

マダラカゲロウ、シロタニカワカゲロウ、モンカゲロウ、エグリトビケラ、
オニヤンマ、カワトンボ、サナエトンボ（以上はすべて幼虫）
シマドジョウ、ホトケドジョウ、ヤマメ（5cm）、カナヘビ、
●アカハライモリ、トウキョウダルマガエル、カジカカエル（声）

「川むしたんけん」を行ったこの場所は、今年もきれいな水質であることが生き物の種類と数からわかりました。前日に降雨があったため去年よりそれは少なめでしたが、おなじみの川虫たちの他にヤマメやドジョウなど、大型の生き物が今年もしっかり生きているのを確認できて一安心でした。

毎年、川むしたんけんを行っているこの場所には、本流とは別に周辺からのしみだし水と思われる冷たい流れ（水温11度）が入ってきています。ここは中洲も形成されており、柳などの低木は水の勢いに負けずしっかり生えています。この場所でたくさんの生き物が見つかるというのも、いろいろな生き物が自分たちに都合の良い環境を見つけて棲み分けをしているのでしょう。圃場整備が終了した明神地区。ここの生き物たちに今後も注目して行ってください。来年もまた、同じ生き物たちに出会いたいものです。遠い日、子供であった皆さんのご参加も大歓迎。楽しいですよ。ぜひご参加ください。（塚崎）



「森のコンサート」のころ ■ 追悼 隅秀一さん ■

音楽好きの集まり「サムシング」の須佐守さんが「こんな歌ができたよ」と、弾き語りで聞かせてくれた歌が「白井平」と「大芦川」でした。2002年の春のことです。県営東大芦川ダム予定地、大芦川や白井平の自然を守ろうと隅秀一さんが詩を作り、須佐さんが曲を付けた歌でした。この歌から、同年8月と11月に鹿沼市草久・白井平で開かれた「森のコンサート」、2003年3月に鹿沼市民情報センターで開かれた「イマジン2003大芦川」という一連の企画が始まりました。隅さんは、「ダム反対」と声高に唱える集会ではなく、音楽を楽しみながら、白井平や大芦川を愛する多くの人が集い、考える会にしたいと話していました。その思いから、曲作りやCD制作に関わった「グリーンズ+サムシング」という音楽仲間が集会を主催することになりました。突然の豪雨の中で披露された「白井平」、古い民家でゆったりと歌われた「大芦川」、情報センターでの西大芦漁協・石原組合長の迫力ある演説など、忘れられない思い出がたくさん残っています。隅さんの熱意から生まれたこれらのイベントは、多くの人々のところを動かしたのではと思います。

隅さんに会ったのは、「今市の水を守る市民の会」立ち上げの打合せでした。福田健彦さんが中心となって1994年に設立した「今市の水を考える会」に、環境問題に関心をもつ個人やグループが合流し、大谷川からの取水に対する反対運動を市民に広めようと2000年4月をめざして準備会が開かれました。私は塚崎さんに誘われて参加することになり、何度目かの集まりで隅さんに会いました。はじめてあいさつを交わしたときの隅さんは作務衣のようなゆったりした木綿の上着を身にまとい、自然が好きで、自然の中での遊びも得意といった雰囲気でした。会の設立直後、5月に行った子ども向けイベント「川むしたんけん隊」、7月の水の会宣伝シールの作成や大谷川取水反対の署名運動なども、隅さんの活躍と行動力がなければ、実現できなかったのではないかと思います。その年の11月、当時の建設省は大谷川取水を中止とし、「今市の水を守る」という目的はひとまず達成されました。その後、私たちの関心は、思川開発の本体である鹿沼市の南摩ダム、そして東大芦川ダムに向いていったのです。

2002年の「森のコンサート」から1年後、福田知事は東大芦川ダム建設中止を表明しました。そんな中、隅さんは本会の「川むしたんけん隊」や「ゆったりウォーク」の企画に関わりながら、自然の中での遊び、地域のできごとや風景を、端正な言葉で、詩とかたちで表現し、歌を作ることに熱中していたように思えます。「1日1作品」と、お気に入りの手帳に、思いついた言葉を書き込んでいました。その手帳から生まれた詩で、2009年には日本作詞大賞新人賞を受賞しました。多方面の活動から生まれた歌は、これからも歌い継がれていくことでしょう。「川むしたんけん隊」では子どもたちと本気で遊ぶ、魚取り名人でした。「ゆったりウォーク」では道ばたの木を眺めながら、自然との関わり方を何気なく教えてくれた、隅さんの姿を思い出します。山遊び情報や季節の山菜の話を、この通信に毎回投稿していただきました。隅さんのコーナーを楽しみにしていた読者も多かったのではないのでしょうか。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(手塚)

川と歌おう!
フォーク・カントリー・ブルース
参加費●無料
出演●SK2、小嶋ファミリーバンド、サムシングクラブバンド、ターゲット・クレイン

オリジナル曲「白井平」発表
水辺にあそぶ 日焼けの笑顔
川カキたちの 声があふれる
白井平の 光る夏
未来に残して みんなのふるさと

日時: 2002年8月4日(日) 12時半~14時半
会場: 鹿沼市草久・白井平 (大貫さん宅前広場)
企画: グリーンズ
協力: サムシング・大芦川の好きなみなさん

大芦川 白井平
約3km
鹿沼市内

連絡先: 0288-27-2183 (8時~17時:森) / 0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)
<http://www.somesing.net/>

下は自主制作CDに添付した隅さん手書きのコメントです。

みなさま

～大芦川の四季～白井平は、2002年夏…第1回「白井平森のコンサート」の中でSK2によって歌われました。このコンサートは白井平、大芦川の素晴らしさを一人でも多くの人に知って欲しい、そんな願いを込めて手づくりで企画したものです。当日は、豊かな自然に囲まれた白井平に大勢の人たちが参加してくれました。それが秋の「森のコンサート」…2003年3月の鹿沼市内での「イマジン2003大芦川」へとつながったのです。これもみんな白井平、大芦川を未来へのつなぎをひとつにする仲間あつての事です。

「白井平、大芦川」この手づくりCDは、そんな仲間たちのところの中にいつまでも…大芦川の清流のようにさわやかに流れ続けられたらいいな…なんて思っています。

グリーンズ&サムシング

活動報告

- 1月25日(水) 定例会
- 2月22日(水) 定例会
- 3月28日(水) 定例会
- 4月25日(水) 定例会
- 4月29日(土) ゆったりウォーク(薄井沢編)
- 5月23日(水) 定例会
- 5月26日(土) 川むしたんけん隊(明神駅そばの行川)
- 6月13日(水) 臨時会議
- 7月25日(水) 定例会

だいや川通信
第33号



郵便振替口座

00140-4-535550

連絡先

〒321-1102 日光市板橋1732-1 森方

今市の水を守る市民の会

0288-27-2183 (8時~17時:森)

0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)

<http://somesing.net/daiyagawa/>

なつかしい光と風を追って

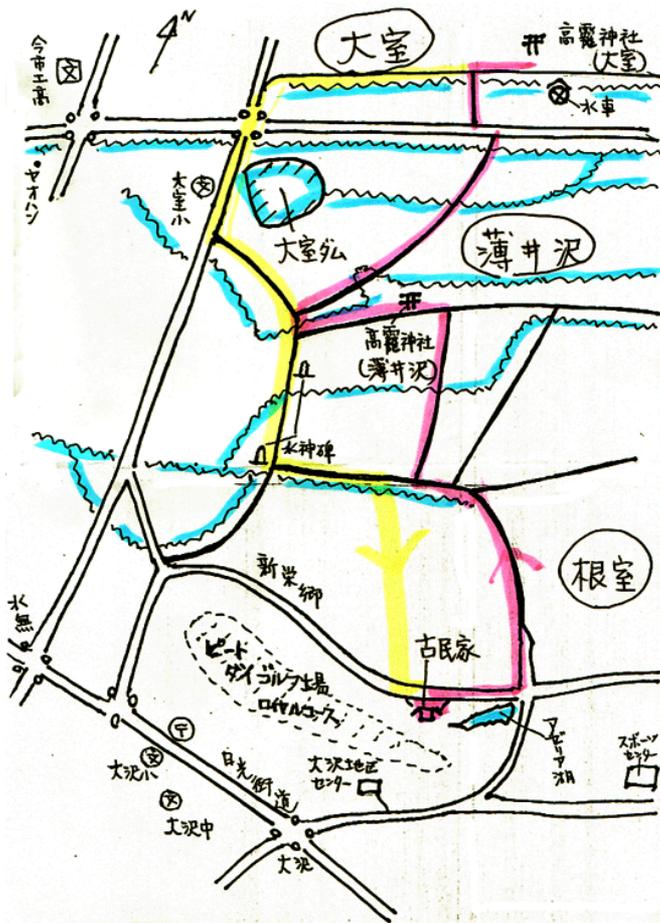
— ゆったりウォーク 薄井沢 — 2012年4月29日

ふだんの生活で利用している広い道路。そこに時々、交差している細い道。その道をたどっていったらどこに行き着くのだろう。そんな思いを基に、今市に住んでいながら運営委員の私達も未だ足を運んだことのない場所、ということで今回、薄井沢を「ゆったりウォーク」に選びました。皆さん、薄井沢は今市のどこに位置するか、ご存知ですか？

祝日の4月29日は朝から快晴。参加者16名。「新栄郷」の中にある古民家—新潟から移築された建物はかつて豪農の館だったそうです)を出発点に、アゼリア湖⇒農道⇒昔ながらの石積み水路⇒一輪草の群生⇒ふかふかの草の道⇒薄井沢高麗神社⇒鷹という名字の多い理由⇒大室高麗神社⇒浅田さんの水車小屋⇒大室ダム⇒古民家に戻る、というコースです。

幹線道路を一本外れると、もうそこには一面の水田が広がっていました。まぶしい光と心地良い風に促されて、行程7kmほどをゆったりとしたペースで歩くことができました。車の往来のほとんどない薄井沢の集落周辺は丁度田植の真っ最中で、昔々の子供達(参加者)がその光景に溶け込むことはたやすく、道草をしながらあれこれ会話を交わしてあっと言う間の7km。「いい汗かきました！」という参加者の感想に足の疲れも吹っ飛びました。

大谷川扇状地の上に成り立っている今市です。湧水や江戸時代からの用水路が各所に残っています。脇道を進めばはなつかしい光景が…。時にはケイタイのスイッチを切って、今市のどこかの小さな脇道を歩いてみませんか。ゆったりウォークはこれからもこんな方法で知られざる今市を発見していきます。さて、次回はどこの脇道を探しましょうか。(塚崎)



編集後記

日光ブランド情報発信センター放射線量測定室(080-2676-1608)で家庭菜園や野草の放射線量測定サービスをやっている。5月はじめに、近くの山で採取したワラビを持っていった。1kgあたり170ベクレルあり、何度も茹でれば放射能は流れ出すから減るだろうけれど、味が悪くなるので食べないことにした●先月は庭で取れたジャガイモとプラムを測定してもらい、どちらも放射性セシウムの検出限界(30ベクレルくらい)以下だった。今年はプラムのなりが悪く、収量は1kgがやっと。食べて大丈夫なことはわかったが、全部測定サンプルになってしまい口には入らなかった。ジャガイモも収穫のほぼ半分が測定のために消えた●放射能は私たちの五感でとらえることができない。経験も役に立たない。頼りになるのは測定だけなのだ。測定すれば安心して食べたり、人にあげたりもできる。5月はじめは山菜などで混雑していたのか、数週間待たされたが、いまは電話で連絡し、数日待ちで測定してもらえる。次はブルーベリーをはかってみようと思う。サンショウの葉や実も測定してみたいのだが、必要量1kgを集められそうになく、手をつけないままになっている●我が家の子猫はもうすぐ1歳。外を元気に飛び回っている。あちこちで虫や小動物を食べているらしい。地上を這う生き物がどれくらい汚染されているのかわりたい気がする。組織的に調べていけば、貴重なデータが得られるだろう。食品とは言い難いコオロギ、ミミズ、トカゲ、蛙、野ねずみなどの生き物や、土壌についても測定できるシステムが望まれる●人間は放射線量計や放射線測定サービスで身を守ることができる。けれど、動物たちは、放射能による大規模な環境汚染が出現したことを知らないまま、いままでの生活を続けている。伸び放題のワラビを眺めながら、山にすむ生き物たちに、なんという罪なことをしてしまったのだろうと、あらためて原発事故の重大さを思う。(T)